

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室
平成29年3月27日
第832号

〒952-1209 佐渡市千種丙 178 番地 1

TEL : 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) FAX : 4117

<http://kanai-es.sado.ed.jp> E-mail : skotoba@sado.ed.jp



『これからは人の悪いところではなく、良さを捜すようにします。自分と比べて落ち込みそうですけど』とその卒業生は笑顔で言いました。いいえ、人の良いところを見つけられるのは、どんな長所より素敵な特技です。あなたがずっとその笑顔で、そして私も良いところ見つけ名人になりたい、と思った春でした。

対話の力

佐渡総合病院 小児科
岡崎 実

オープンダイアログというフィンランドで実践されている精神病の治療法に注目しています。驚くことに、対話の力で統合失調症が治るといいます。日本の精神科ではもちろん薬物療法が主流です。

その方法とは、心の不調に気づいた本人や家族が施設に連絡を入れると24時間以内に精神科医を含めて数人の治療チームが自宅に駆けつけます。そこで、本人や家族、世話人さんと7-8人で輪になって毎日1時間、10日ほど対話するのだそうです。あきらかな妄想であっても否定せずに最後まで話を聴き、その内容を尊重して応答し、みんな対等に双方向のやりとりを続けます。

人の尊厳を守り、すべての言葉を真剣に耳を傾けて受け止め、その内容を詳しく教えてもらいながらいねいに話し合う。言葉の共有、やりとりの響き合いの中に身を置くと、患者さんの中で分断されていた意味のつながりが回復し始めるのでしょうか。明らかな症状が改善し、薬がいらぬこともあるそうです。

改めて、「ていねいな対話」がもつ「心を整える力」に気づかされました。

子どもの心の痛みを知る

子どもは大人の一言や表情やその微妙な空気から、心にある気持ちを感じ取ります。この人は自分のことを大事に思っているのか？どこまで自分と向き合おうとしているのか？

自分の気持ちを言葉にすることが苦手な子と話す中で、子どもの心の傷を知り、その痛みを「痛いね。」「嫌だね。」「辛いね。」と言語化できた時、子どもの表情は緩みます。

ネガティブな感情を聞いて受け止めることと、甘やかし迎合すること。ルールを明示してしつけることと、怒りで恐怖や不安を与えること。これらの違いの見極めは難しく、時と場、その子の置かれている状況によって、今何が一番その子に必要なのかを考え葛藤の連続です。そんな中、嫌な気持ちをもっていても、丸ごと「あなたが大事」というメッセージを伝える事を忘れてはならないと思います。

目の前の子ども達から教えられながら、我が子が小さい頃「痛い。嫌だ。やりたくない。」と言う度に、困り果てた私は怖い顔で「痛くない！そんなこと言わない！」と怒りで制止していたなと思い出しました。(滝田)

特別支援教育について思うこと②

子ども若者相談センター
家庭児童相談員 山川辰也

その子どもは「目立たない子ども…いや目立ちたくない子ども」でした。「学業成績は普通なのに、自己肯定感が低く何事にも自信の持てない子ども」でした。「人と争うことを好まず…友達を作れない子ども」でした。「いじめられやすいタイプの子ども」で実際に陰湿ないじめを受けていました。しかし、親も教師も「おとなしいごく普通の子ども」と思い核心部分に気が付きませんでした。

その子どもが成人し就職しました。過酷な労働条件のもと残業続きでおまけに職場の人間関係(いじめ)の悪化が元になり、心身ともに疲れ果てとうとう統合失調症を発症してしまいました。今、幻覚・幻聴等に苦しんでいます。自助・共助・公助で…スモールステップで…この病・障害と闘う日々です。

いわゆるグレーゾーンに入るであろうこの子どもの核心部分に親や教師が早く気づき、その子どもにぴったりの配慮と指導・支援を早期から提供できていたなら、この子どもは今こんなに苦しんではいないでしょう。「社会参加・自立」の名のもとに、結果的に「せかしすぎる教育」「強要しすぎる教育」「無理解な教育」をしているとしたら、それは「教育公害」としか言いようがありません。



親の会コーナー

終了者懇話会を行いました

3月21日に、佐渡ことば・こころの教室終了者懇話会が金井小学校で行われました。当日は、22人の終了者と、その保護者が参加してくださいました。

終了式では、佐渡市教育委員会や、親の会からお祝いの言葉をいただき、終了証をお渡ししました。懇話会では、保護者の方から、終了に当たっての感想をお話していただいたり、担当者からも思いをお話させていただいたりしました。温かい雰囲気とたくさんの笑顔にあふれた素晴らしい懇話会となりました。終了者の皆様、おめでとうございます。



お知らせコーナー

「終了にあたって」 A・N (通級終了生徒の保護者)

中学校卒業だなんて遠い先のことだと思っていたのに、あっという間にこの日がきました。まだ小さかった息子の手を引いてことばの教室に通った日々がつい先日のような気がしています。コミュニケーション面と社会性にハンデのある息子です。うまくいかないことが重なり、親子で涙した日もありました。辛いとき、先生にかけていただいたやさしい言葉と笑顔に何度励まされたかわかりません。ことばの教室は、私たち親子にとって「もう少しがんばってみよう」という勇気をもらえる場所でした。感謝のことばは何度繰り返しても足りません。ここでの温かい思い出を糧に、新しい道に進む息子をこれからもしっかりとサポートしたいと思います。9年間という長い間、支えてくださってありがとうございました。